－第 19 号－

地域・だいがく連携通信
－神戸大学地域連携ニュース－

神戸大学地域連携推進室
〒 657-8501
神戸市灘区六甲台町 1-1
TEL ：078-803-5391
FAX：078-803-5389
E-mail：ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

ＣＯＣ＋事業に取り組んでいます

MUSUBU

COC+ 事業シンボルマーク
大学間、あるいは学生、大学、企業を結ぶという意味を込めて愛称を「MUSUBU」としました。

神戸大学が中心となって申請した「地域創生に応える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」事業が、平成 27 年度文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）」に採択されました。平成 28 年 6 月 6 日には、平成 28 年度第 1 回目の協議会を本学で開催し、今年度の事業方針を決定いたしました。

ＣＯＣ＋事業は産学官一体となってプラットフォームを構築し、地域課題解決に資する人材育成を行うとともに、若者の地元定着を目指す事業です。事業協働機関には本学のほか、兵庫県立大学、神戸市看護大学、園田学園女子大学、兵庫県、神戸市、神戸商工会議所、兵庫県経営者協会、兵庫工業会、神戸新聞社が参画しています。

兵庫県は日本の縮図と言われ、多様な地域課題を有しています。本事業では、各大学がこれまで培ってきた地域社会形成や課題解決のために蓄積してきた成果をもとに、「歴史と文化」「自然と環境」「子育て高齢化対策」「安心安全な地域社会」「イノベーション」の 5 領域にコーディネーターを配し、教育プログラムを開発しています。本学では、平成 29 年度には、共通教育科目の中に「地域形成基礎論（仮）」、「ひょうご神戸学（仮）」を開講し、地域住民として必要な基礎力を養っていく予定です。また、事業協働機関と連携し、様々なインターシッププログラムを通して、地元企業の魅力を発見し、地域で暮らすことについて考える機会を提供していきます。

グローバル人材育成をテーマに 国際協力研究科と生野高校が交流

平成 28 年 7 月 14 日、兵庫県立生野高等学校の生徒（38 名）が、本学の国際協力研究科を訪問しました。生野高校の所在する朝来市と神戸大学は平成 16 年に連携協定を締結し、これまで生野町の歴史文化遺産を中心とした地域連携事業を行ってきました。

この度、「地域・企業・大学・海外との連携によるグローバル教育」を目標に掲げている生野高校と本学国際協力研究科の教員・学生との交流を持つ機会が設けられました。

当日は、四本健二研究科長の歓迎メッセージの後、本研究科の修了生で現在ユニセフに勤務されているマリアナ・クーリカン氏から「持続可能な 開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) とユニセフの活動」をテーマとした英語での講義がありました。また、本研究科の小川啓一教授からは「これから期待されるグローバル人材」をテー マに日本語での講義があり、参加した高校生からは活発な質問がありました。

生野高校の生徒達は、国際協力研究科が開発途上国の教育省中・上級官僚を対象に実施していた JICA 課題別研修「教育行財政」の講義にも参加し、研修員が作成した自国の教育改善計画書の発表も聴講しました。最後に、本研究科の留学生と事前に与えられたテーマをもとにグループに分かれて英語でディスカッションを行いました。

生野高校の生徒と国際協力研究科の学生・教員ら（六甲台講堂前）

神戸市キーナの森における里山の伝統的管理の実践

学生地域アクションプランより―神戸学生森林整備隊の活動

平成 28 年度学生地域アクションプランに採択された神戸学生森林整備隊の代表学生である堀田佳那さんにお話を伺いました。

―活動の概要について教えてください。

活動拠点の「キーナの森」は神戸市北区と西区の区境にあり、現在開園に向けて整備が進められています。私たちは、里山保全活動をされている方とご一緒に、キーナの森の主園路周辺にある林道を手作業で整備しています。その他に、カブトムシの産卵床作りなど里山資源の探索や開園後にどのようなイベントができるか試行しているところです。

―どのような人たちが参加していますか。

学部生から大学院生まで 15 名程度、卒業後も関わってくれる人もいます。主に農学部の出身者ですが、発達科学部や理学部、他大学の学生も所属しています。里山管理はこれまで継続性がないことが問題でした。学生団体を作れば、毎年新しい学生が加入するので、引き継ぐことができるのではないかと考え、学生サークルを立ち上げました。

―2014 年に堀田さんが始めた団体なのですね。

そうです。団体を設立した理由の半分は、植栽による自然の復元が実際に正しくできているのかという自分の研究の実践をしたいという思いからでした。元々私の研究フィールドは、キーナの森の北部分「再生の森ゾーン」でした。そこは、神戸空港の建設のために掘削された地域で、人の手で植栽された緑化地でしたが、荒廃したままになっていました。そこでどういった山林にしたいのか、隣の山を目標にと考えていたのですが、結局はその山林も荒れていました。「それじゃあ里山管理も必要じゃないのか?」と思い、学生団体という形にすれば、自分一人の考えだけでなく、やりたい人が里山管理に参加してくれるだろうと考え、まずは研究室のメンバーと一緒に始めました。ちょうど、キーナの森を管理されている方とも関係があったので、一緒に活動しようということになり、里山の知識を教えていただいています。

薪小屋の完成！

ヒサカキの伐採

―活動内容はどのように決めるのでしょうか。

昔ながらの里山管理と同じように活動しているので、春は薪割り、夏は林道整備、冬は炭焼きを実施するなど、全体の活動の骨子は決まっています。それ以外に、先ほどの昆虫調査などは、夏に行えることが少ない時に、メンバーの提案で実施することになりましたし、薪割りをした後、置く場所がないので、必要に迫られて薪小屋を作るなどもあります。日々の活動の中で広がることも多いですが、今年からは何をやるべきかについて、ミーティングで意見を出し合って、次の活動に生かそうということも行っています。

―食べる活動もあるみたいですね。

楽しまなければ意味がないというのがコンセプトの一つです。お茶を沸かすときは、ヒサカキを切って、火で炙って、ヤカンに入れて作ります。少しツンとした味で、私は好きです。しかも明るい里山を作るには、ヒサカキは切らなければいけない木なのです。

―まさに地産地消ですね。それらの知識は一緒に活動する年配の方に教えていただくのですか。

そうです。主に指導いただいているのは、そういった知識が豊富なご高齢の方です。昔ながらの薪の作り方や木の組み方、蔓で薪をまとめる方法などを教わっています。例えば、木を切る時に、なぜそしてどのタイミングでその木を切るのかまで指導してくださいます。言葉として聞いていても、実際やってみないと分からないことが多いです。里山はこのように管理されていたと本を読んだだけでは分かりませんが、教えてもらって実践し、その後に読み返すと、「ああ、これをやったのか」とすんなり理解できます。小さな植物の名前を教えてもらい、本のこの部分に載っているのか、と今まで自分のアンテナに引っかからなかったものが引っかかるようになりました。私は里山に全然興味ないと言っていたのに、気づけば里山のことにどっぷりはまっていました。

―本日はお忙しい中ありがとうございました。

神戸大学持続的災害支援プロジェクト Konti による熊本派遣報告会

平成 28 年 7 月 28 日、学生の災害支援団体「神戸大学持続的災害支援プロジェクト Konti」による、熊本県の西原村と南阿蘇村での支援活動報告会（活動日程:7 月 16 ～ 18 日）が学内で開催されました。まず、代表の稲葉滉星さん（工学部 4 回生）から挨拶があり、被災した地域の復旧・復興に向けて、被災者一人一人の気持ちを受け止める場・空間づくりを行っていきたいとの発言がありました。

続いて、メンバーから支援活動について報告がありました。1 日目には、西原村出身の本学生が行っている西原村での支援団体「わかば meeting」による食器市の手伝いや、足湯・ミニ縁日が行われました。食器市に来られたお客さんの中には素麺を盛るための大きなお皿を求めておられた方がいたことから、支援する側として、その土地や季節柄で地元住民がどのような食器類を必要としているのかを知る必要があるとのことでした。足湯・ミニ縁日のイベントは、西南学院大学と東京の支援団体と一緒に活動しました。地震の前には開催していたお祭りが今年には中止になり、プールも壊れてしまったことから、縁日も " 足湯 " のお湯を水に変えた " 足水 " が子どもに大盛況だったと報告されました。

イチゴ農家での農業支援の様子

2 日目と 3 日目は、南阿蘇村においてイチゴ農家での農業支援、西原村においては半倒壊家屋のゴミ処理と元避難所の支援物資の整理を手伝いました。

報告会の最後に熊本県出身の学生による地元の魅力紹介がありました。会場からは、現在の被災者の心情や、他の支援団体との関係づくりなどについて活発な意見交換が行われました。

次回の活動は 9 月の予定ですが、これからの長い復興過程において現地での活動だけでなく、神戸での報告会なども行いながら支援活動を継続していくとのことです。

大分県中津市と連携協定を締結

神戸大学は、平成 28 年 4 月 22 日、大分県中津市と連携協定を締結しました。大分県中津市は、本学の前身である神戸高等商業学校初代校長、水島鐵也先生の生誕の地です。水島先生は、22 年の長きにわたって校長を務め、今日の神戸大学の礎を築かれました。

調印式ではまず、神戸大学から武田学長、中津市から奥塚市長、古江市議会議長による挨拶があり、その後、協定書の調印が行われました。武田学長は「人間性豊かな水島先生の精神を受け継ぐ次代の人材育成に特に寄与したい。」と話し、奥塚市長は「水島先生のご縁を基に、実ある連携を積み重ねながら関係を今後築いていきたい。」と述べられました。

平成 28 年 6 月 3 日には、連携事業の一環として大分県中津南高校で、吉井昌彦副学長による「日本経済の今後を考える」と題した出前講座が開かれました。当日は、全校生徒を対象に、学問分野である「経済学」の定義から、日本経済の変遷や経済情勢についての話があったほか、神戸大学の礎を築いた水島銕也先生の出身地である中津市との関係についても触れられました。

調印式での奥塚市長と武田学長

中津南高校での出前講義の様子

平成 28 地域連携 学内公募事業

地域連携推進室では、学内の新しい地域連携の芽を育てるため、教職員や学生による地域活性化のための活動を支援しています。今年度は、次の各事業が採択されました。

●地域連携事業（教職員対象）

国際文化学研究科	映像を媒介とした大学とアーカイブの地域連携
経済学研究科	複数大学の連携による小学校跡地活用 「サテライトキャンパス事業」
医学部附属病院	地域健康度の向上を目指した「かかりつけ薬剤師」育成と 地域医療連携推進
工学研究科	被災地定点観測を通じた多世代災害語り継ぎと手法の開発
工学研究科	鶴甲団地・高倉団地再生・活用プロジェクト

●学生地域アクションプラン（学生対象）

神戸大学アメリカンフットボール部	フラッグフットボールを通しての地域との交流
神戸在宅呼吸ケア勉強会	神戸在宅呼吸ケア地域連携ＭＡＰ改訂版の作成と地域導入
母子健康応援プロジェクト	母子にやさしい街づくり
神戸学生森林整備隊	神戸市キーナの森における里山の伝統的管理の実践
にしき恋	篠山市西紀南地区における農村地域活動

平成 28 年度 神戸大学・灘区まちづくりチャレンジ事業助成

灘区との連携協定に基づき、教職員・学生からなる組織を対象に「地域の課題解決および魅力向上を目的として実施する活動・事業」に対して灘区が助成を行っています。今年度の採択事業は次のとおりです。

人間発達環境学研究科（教職員）	鶴甲いきいきまちプロジェクト
まちプロジェクト実行委員会（学生）	まちプロジェクト　―まちＴフェス '16―
CROSS　LINK @ 653（学生）	六甲山森林保全のための勉強会
灘区地域活動センター（N.A.C)（学生）	灘区内の災害復興住宅の集会場におけるふれあい喫茶の 運営や戸別訪問活動

活動報告（2016 年 3 月～ 2016 年 8 月）

3 月	03 日	人文	特別展「明治期の山田家と鉱山経営」生野銀山から華坂鉱山へ（～ 3 月 21 日）
	07 日	大学	大学と連携したまちづくりチャレンジ事業助成（灘区公募事業）公募開始
	08 日	工学	震災復興学シンポジウムー災害対応力を備えた社会のあり方検証ー
	16 日	大学	平成 27 年度第 3 回地域連携推進室会議
	17 日	大学	地域連携事業・学生地域アクションプラン公募開始
	25 日	大学	平成 27 年度神戸大学地域連携活動報告書を発行
4 月	22 日	大学	神戸大学と大分県中津市が連携協定を締結
	27 日	大学	平成 28 年度第 1 回地域連携推進室会議
5 月	11 日	大学	中津市議会議員来訪 平成 28 年度第 2 回地域連携推進室会議
	28 日	保健	保健学研究科地域連携センター「第 9 回 Cinema Cafe」
6 月	03 日	大学	大分県中津南高校での出前講議
	06 日	大学	平成 28 年度第 1 回ひょうご神戸プラットフォーム協議会
7 月	14 日	国協	生野高校生徒が国際協力研究科を訪問
	26 日	法学	久元・神戸市長による「行政学」講議
8 月	11 日	人文	西脇地域及び西脇小学校の形成・設立に関する調査（～ 12 日）
	18 日	農学	地域連携セミナー＆篠山イノベーターズスクール説明会 『農村における人材育成としごとづくり』(梅田インテリジェントラボラトリ)